

フラッグフットボールの学習指導要領への導入と実践に関する研究

北 勝 千 明

キーワード：フラッグフットボール、学習指導要領、

1.研究の動機

タッチフットボールは、第二次世界大戦で敗れた日本が米軍の影響で教育全体及び体育の方向性を大きく転換し、民主主義の方針の中でスポーツ教材が重視されたため 1947(昭和 22)年学校体育指導要綱で学校体育の教材に導入された。しかし、指導と用具の調達が困難であったことに加え、学校体育の方針が基本的技術の系統だった学習と体力育成に重点を置くオリンピック選手養成型に変わったために 1958(昭和 33)年の学習指導要領からは姿を消した。その後、約半世紀経ち、2008(平成 20)年改訂の学習指導要領にタッチフットボールと同様のゲームとしてフラッグフットボールが掲載されるようになった。タッチフットボールが数年で学習指導要領から削除されたにも関わらず、フラッグフットボールが学習指導要領に掲載されるようになった点について疑問を抱いた。

2.研究の目的及び意義

フラッグフットボールが導入され始めた 2008(平成 20)年改訂の学習指導要領と、その前後の学校での授業実践から、フラッグフットボールが持つ教育的価値を再考することを本研究の目的とする。

また、この研究を通してフラッグフットボールへの理解は深まり、更なる競技実施の拡大、ひいてはフットボールの競技人口拡大につながるだろう。この点に本研究の意義を主張したい。

3.先行研究の検討

日本におけるフラッグフットボールの実践と教育に関する先行研究を検討する。宗野らによる学習指導要領の中での『ゴール型』ゲームに関する研究や、ボールゲームの指導理論でフラッグフットボールに着目した研究は見られた。しかし、フラッグフットボールが学習指導要領に導入された背景を明らかにし、その実践を踏まえフラッグフットボールが持つ価値についてまとめられたものはない。

4.研究の課題と方法

本研究の課題は以下の点を解明することである。

(1)フラッグフットボールの学習指導要領への導入と実践

(2)フラッグフットボールの持つ教育的価値

以上の課題を解決するために学習指導要領や体育科教育、協会のレポート等を参考に実践や価値を分析する。

5.本論

5.1.フラッグフットボールの学習指導要領への導入

文部科学省は、21 世紀はいわゆる「知識基盤社会」の時代であると言っており、そのような社会の中では確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要であると考えている。特に今回の改訂によって、思考力・判断力・表現力等の能力をはぐくむことや個性を生かす教育をする方針がより強調されるようになった。また、体育科の

目標として生涯にわたる健康の保持増進や学んだことを普段の生活で生かすこと等が挙げられ、体育の目標としては、情緒的な発達を促すことやコミュニケーション能力を育成すること、論理的思考力の育成、そしてその能力を身に付け生涯にわたって運動に親しむことが出来るようにすることが挙げられた。そしてフラッグフットボールが含まれるボール運動系の目標は、改訂によって一定の区間で逃げたり追いかけたり陣地を取り合ったりすること、ボールの操作やボールを持たない時の動きを身に付けることについて詳しく記載されるようになった。

一方、実際の現場ではフラッグフットボールの実践は行われていた。作戦をあらかじめ決めることができるのでそれぞれの動きが分かりやすく積極的に授業に参加するようになったり、作戦を考える過程では工夫するようになったこと等、児童に大きな変化が見られたことが実践による成果であった。これらの成果はまさに、「情緒面や知的な発達」「生涯にわたって運動に親しむこと」「論理的思考を育むこと」といった、学習指導要領で重要とされている目標の達成に繋がるだろう。学習指導要領の改訂に対して、このような成果が見られる実践がなされていたフラッグフットボールが教材として評価されたため、学校体育の教材に導入されたと考えられる。

5.2. フラッグフットボールの学習指導要領導入

後の実践と成果

日本フラッグフットボール協会によれば、2015年度には全国5200校以上の小学校でフラッグフットボールの実践が行われていることが分かった。その中のいくつかの実践例の授業の様子と成果からフラッグフットボールが持つ教

育的価値が明らかになった。元日本フラッグフットボール協会代表理事の高橋健夫氏によって述べられた教育的価値は、①鬼遊びの延長線上で楽しめる、やさしい球技である②だれでも参加でき、一人一人がゲームの中で重要な役割を果たすことができる③発達段階に応じたやさしいゲームを楽しむことができる④みんなで協力して成功する、集団的達成の喜びが味わえる⑤効果的に戦術学習を進めるための最適材料である⑥心と体を一体にする最高のスポーツ教材である。であるが、これに加えて(1)ゲームが1プレー毎に途切れるため、目の前のプレーに集中しやすい(2)作戦を立て実行する過程を経ることができるといった価値もあると考えられる。この2点について、自ら考え工夫しながら運動の課題を解決するという点と、集団的活動や身体表現などを通じてコミュニケーション能力を育成するという点で学習指導要領の目標が達成されていると言える。

6. 結論

学習指導要領の改訂によって「生きる力」やその他いくつかの能力が重要視されるようになり、その能力を身に付けるために目標が掲げられた。フラッグフットボールは実践によって「情緒的な発達」や「論理的思考力の向上」など様々な点が評価され、現在でも授業の目標やねらいが設定されている。

また、フラッグフットボールが持つ教育的価値はいくつかあり、思考力・判断力・人間関係に分けられる。これらは学習指導要領内でも注目されている能力であり、そこで掲げられた目標を達成していることが分かる。